

公益財団法人 埼玉県消防協会 女性消防団研修会
意見発表

平成25年12月7日

みなさんおはようございます。私は久喜市女性消防団員の松本です。

「自分にとって大切な命を守りたい」

赤い火の形をした大きな頭に、赤い全身タイツ、そして赤いマント・・・これは、久喜市消防特別点検の日に、実際に私が着ている衣装です。

特別点検なのに赤い全身タイツ？と、思う方もいらっしゃるかもしれません。

私たち久喜市女性消防団は、火災予防広報の一環として、主に防火大会や消防特別点検の中で寸劇を行っています。子供やその保護者の方を対象に、火事の原因となりうる日常のささいな出来事を「火のポッポちゃん」と題して紹介していくという内容の寸劇です。

私の演じているポッポちゃんは、とても元気のよい火の役です。だんだんと大きな炎になり、踊りながら飛び跳ねるポッポちゃんに、「ポッポちゃん！」「がんばれー！」と子供たちが大きな声で応援をしてくれます。恥ずかしくも一番うれしい瞬間です。はしゃぎすぎて最後には火事の原因となり、消防士さんに消し止められてしまう・・・。ポッポちゃんにとっては少し残念なストーリーですが、寸劇後には、写真撮影をお願いされることもある程、人気の役でもあります。

このような活動をしている久喜市女性消防団に私が入団したきっかけ、それは息子の存在でした。当時（2歳）でわんぱく盛りだった息子は、怪我を恐れないダイナミックな遊びばかりして、頭や身体をあちこちにぶついたり、転んだり・・・。食事のときは欲張って口の中に勢いよく大きな食べ物を運び、喉につまらせそうになったりと、日々の生活の中にはたくさんのヒヤッとする場面がありました。何かあった時、私はどうしたらいいのだろう。大切な我が子を守るのは、母親である私なのだから。わたしは応急手当について学びたいと考えるようになりました。

一方で、息子の成長とともに、外へ出かけることが増え、地域の方々が、子供たちや地域の安心・安全の為に、様々な催しや活動をしていることを知りました。

「息子のため、地域のために、何かできることはないだろうか・・・。私も誰かの役に立ちたい・・・」そういった思いが私の中に芽生え始めていました。

そんな時、久喜市に女性消防団が発足することを知りました。

救命講習指導、火災予防活動など、女性消防団員としての活動内容は、まさに私の望むものでした。女性消防団員となり、活動を続けて5年が経ちます。消防団活動を通じて、

緊急ではない救急車の要請や、十分でない住宅用火災報知機の設置状況など、不安な現実も知ることとなりました。

住宅用火災報知機の設置が義務付けられた当時、私は祖母と一緒に煙式警報機を買いに行きました。消防団員として、住宅用火災報知機の重要性を学び、効果を認識していたからです。購入の翌日、祖母は数人の近所のお友達に、火災報知機の設置が義務付けられたことについて話したそうです。まだ設置をしていないお宅ばかりだったそうですが、皆さん近くにご家族が住んでいたとのことで、早速お願いをして取り付けたのだと、後になって聞きました。

私にとってはたいしたことのない、火災報知機の購入や取付け作業が、高齢者の方々にとっては、一番のネックになっているのだと、その時強く感じました。それから祖母宅へ遊びに行くと、火災報知機が気になってしまい、必ず作動確認をしています。

今年の9月にも「住宅用火災報知機設置推進指導員研修」を受講しました。

初めは何の知識も経験もなかった私ですが、数々の研修や消防署職員の方々からの指導を受けることで、多くのことを学び、たくさんの方々との出会い、伝えていくことができるようになりました。救命講習会では、私たち女性がお手伝いする事により、場が明るくなった、参加しやすくなった等、温かいお言葉をいただくこともあります。

私自身が生まれ育った地元でもある久喜市で、女性消防団員として活動できる今をとて、も幸せに感じています。

地域には様々な分野で活躍をしている方たちがいます。そして、私には、消防団活動を通じて知り合った多くの仲間がいます。それぞれの知識を持ち寄って、協力し合って、助け合って、地域の気持ちを同じ方向に向けていきたいと考えています。

私の消防団入団のきっかけを作ってくれた息子も今年（7歳）になりました。今では私の消防団員としての活動の大切さを理解し、応援してくれています。これからも学ぶ機会を大切に、万が一に備えて、自分自身でできることはすぐに行っていこうと思います。

「自分にとって大切な人の命を守りたい」 私たちは皆、そう思っているはずです。

そしてそれが、自分にもできることだと知り、地域で学ぶことができ、すぐに始められることだとわかれば、誰もが実践できるはずです。

きっかけはどんなことでもいい。ただ多くの人たちに、応急手当や火災予防で、救える命がたくさんあることを知ってもらう為、日々、学び、活動していきたいです。

ありがとうございました。